

経済学部(経営学科)の3つのポリシー

【 学士(経営学) 】

大学の目的 (学則 第3条)		学部(学科)の教育研究上の目的	
<p>本学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目的とする。</p>		<p>個人を尊重する共生の精神を基礎に、地域と世界に向かって開かれた大学として、社会科学の諸分野を総合した特色ある学術研究を行うとともに、現実の企業経営の動向を理解し、企業経営に必要とされる問題解決力と幅広い視点を備えた職業人を養成する。</p>	
ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー	
<p>【卒業認定・学位授与方針】 経済学部経営学科では、本学科の目的に基づき所定の課程を修了し、以下に示す「幅広い知識」、「専門的学識」、「問題発見・解決力」、「社会貢献力」、「コミュニケーション能力」を身に付けた者に、学士(経営学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 経営学科では、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた5つの能力を身に付けさせるため、経営学を中心としながら、経済学や法学分野も含めた体系的な学修が可能となるよう教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程実施方針】 ・1年次においては、幅広い知識を備えた人材を育成するために、教養教育を実施する。経営学科では経済、経営、法律分野の導入科目を必修科目として実施する。 また、後学期からは、少人数型学習の導入教育として入門ゼミナールを実施する。</p> <p>・2年次からは、幅広い知識と専門的学識を体系的に身に付けさせるため、学生の関心や希望する進路に応じて学科横断的な「戦略経営」「国際地域」「企業経営と法律」「ファイナンス」のいずれかの履修コースに所属させる。 また、変化の著しい経営環境の下での企業経営を自分自身で考える力を身に付けさせるため、専門科目(基礎、発展)を広く体系的に実施する。さらに、経営関連分野の知識の活用やコミュニケーション能力を身に付けさせるため、必修科目として、前学期に基礎ゼミナールを、後学期からは専門ゼミナールを実施する。</p> <p>・3年次からは、ビジネスマインドやマネジメント能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力及びチームワークなどといった、プロフェッショナル(職業人)としての企業経営における問題解決能力を身に付けさせるため、2年次に引き続き専門ゼミナールを必修科目として実施する。</p> <p>・4年次では、専門ゼミナールの指導教員の下で、データを収集・分析し、これらに論理的な考察を加えることによって、卒業論文を完成させることで、創造的な思考力、問題発見・提起力、問題解決力を身に付けさせる。</p> <p>・夜間主コースにおいても、上記の教育課程編成方針や実施方針の基本を踏襲する。(基礎ゼミナール、履修コース制は昼間主のみ。また夜間主では卒業論文は選択)</p>	<p>【入学者受入れの全体方針】 経済学部では、社会科学の分野に興味・関心を持ち、次のような能力を身に付けて積極的に地域・国際社会に貢献する意欲がある人材を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決能力や創造力</li> <li>・幅広い知識や専門的知識の修得</li> <li>・他者及び多様な文化を持つ者とのコミュニケーション能力</li> </ul> <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 一般入試(前期日程) 大学入試センター試験では、高等学校卒業レベルの理解力を備えた人を選抜する。 個別学力試験では「英語」又は「数学」を課し、経済学部で学ぶために必要な論理的思考力と表現力を評価する。</p> <p>一般入試(後期日程) 大学入試センター試験では、高等学校卒業レベルの理解力を備えた人を選抜する。 個別学力試験では「小論文」を課し、社会科学的思考力と文章表現力を評価する。</p> <p>特別入試(推薦入試、帰国生徒入試、社会人入試) 「小論文」を課し、社会科学的思考力及び文章表現力を評価する。また、「面接」を課し、社会問題への関心度、表現力、積極性及び判断力を評価する。</p> <p>私費外国人留学生入試 日本留学試験では、日本語能力、論理的思考力及び数学の基礎学力を評価する。 「小論文」を課し、社会科学的思考力及び文章表現力を評価する。また、「面接」を課し、社会問題への関心度、表現力、積極性及び判断力を評価する。</p> <p>【入学前に学習すべきこと】 高等学校までに学ぶ国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語について、十分な基礎学力を身に付けておくこと。更に、創造力、責任感、コミュニケーション能力及び問題発見能力を身に付けておくこと。</p>	
【学修成果の到達目標】		【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	
幅広い知識	<p>【学修成果】 企業の経営活動に関する知識の修得に加えて、人文科学、自然科学、社会科学の各分野の学修を通して、広汎な知識と教養を兼ね備えたビジネスパーソンに不可欠な人間性を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 専門基礎科目、入門ゼミナール、基礎ゼミナール、専門ゼミナールの単位修得</p>	<p>【学修内容】 幅広い知識を身に付けるため、人文・自然諸科学の知識と語学を学修する。社会科学の諸領域を横断した知識を幅広く身に付けるため、経営学科の専門教育科目以外の科目を学修する。</p> <p>【学修方法】 履修計画をしっかり立てた上、講義形式の授業によって、幅広い知識を効率よく学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆及び期末試験等により、到達度を客観的に評価する。</p>	
専門的学識	<p>【学修成果】 経営学、会計学、商学、経営科学といった経営に関する多様な専門的学識を修得することにより、現実の企業経営の動向を理解し、戦略的に思考し、社会の発展・繁栄に貢献するプロフェッショナル(職業人)として行動する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 導入・基礎・発展までの専門教育科目を体系的に履修し、幅広い専門知識を十分に修得している。</p>	<p>【学修内容】 専門的学識を身に付けるため、経営学科の各分野の専門教育科目を体系的に学ぶ。</p> <p>【学修方法】 履修計画をしっかり立てた上、講義形式の授業によって、専門知識を効率よく学修する。 専門ゼミナールにおける能動的学修によって、高度な専門的学識を蓄積する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆内容及び期末試験等により、学修の到達度を客観的に評価する。 演習については、専門的知識修得のための課題への取り組み及び成果発表等により、客観的に評価する。 卒業論文は、審査によって評価する。</p>	
問題発見・解決力	<p>【学修成果】 企業、地方自治体などの組織を取り巻く経営環境の変化へ対応するため、多様な経営諸理論を学修し、ビジネスマインド(経営的思考力)に基づいた思考により、問題発見・問題分析・問題解決を図り、新たな価値を創造する能力と柔軟・的確な判断力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 専門基礎(導入)科目の単位修得、専門教育科目の単位修得、専門ゼミナールの単位修得、卒業論文の単位修得(昼間主のみ)</p>	<p>【学修内容】 高度な専門的学識を修得するために、1年次より社会科学の基礎科目から各分野の専門教育科目まで体系的に学ぶ。 幅広い専門的学識を修得するために、経営学科の専門教育科目以外の自然・社会科学諸領域の中の関連科目を学修する。 現実社会や企業経営に対する洞察力・分析力・問題解決能力を修得するために、専門ゼミナール、卒業論文において個別の研究テーマを深く学修する。</p> <p>【学修方法】 講義形式の授業によって、高度な専門的学識を効率よく学修し、人文・自然・社会科学諸領域の中の関連知識を幅広く学修する。 能動的学修によって、経営学の知識に裏付けられた問題発見・解決力を育む。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆内容及び期末試験等により、学修の到達度を客観的に評価する。 演習については、専門的知識修得のための課題への取り組み及び成果発表等により、客観的に評価する。 卒業論文は、審査によって評価する。</p>	
		【求める資質・能力】	
		【求める資質・能力】 幅広い知識を獲得するための必要な基礎学力と、学ぼうとする意欲	
		【求める資質・能力】 専門的学識を獲得するために、必要な基礎的学力と論理的・数理的思考能力や英語能力、あるいは入学後に、これらを身に付けようとする意欲	
		【求める資質・能力】 社会や企業組織をとりまく諸問題と、その解決策をより深く学ぼうとする意欲	

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
【学修成果の到達目標】		【学修内容, 学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
社会貢献力	<p>【学修成果】 経済社会の一員であることを自覚し、企業の経営活動が社会に及ぼす影響を鑑み、双方の相互信頼関係の構築に向けて、組織人として自分の果たすべき役割を認識し、責任ある行動を通じて社会に貢献する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 教養教育科目の単位修得、専門基礎(導入)科目の単位修得、専門教育科目の単位修得、キャリア形成科目の修得</p>	<p>【学修内容】 広い視野から社会における自己の役割や他者への責任を認識し、社会に貢献する意識と力を身に付けるため、経営学を中心に、人文・社会・自然科学や外国語を学ぶ。 社会人としての責任感を身に付けるため、専門教育科目やキャリア形成科目の学修や交換留学を経験する。</p> <p>【学修方法】 1年次に集中して教養教育科目や外国語を学ぶことによって、初年次より幅広い視野の中での社会貢献の意識を確実に植え付ける。 インターンシップや交換留学など体験・経験型の学修を通じて、地域、国際社会、及び企業組織の中での自己の役割や責任感を醸成し、社会貢献力を高める。</p> <p>【学修成果の評価方法】 教養教育科目の単位修得、専門基礎科目の単位修得、専門教育科目の単位修得、キャリア形成科目の単位修得をもって目標に到達したと評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 経営学科で学んだことを社会や企業組織で活かし、社会並びに企業組織における責任を果たそうとする意欲</p>
コミュニケーション能力	<p>【学修成果】 経営活動の場で直面する諸問題に対処する上で、異なる文化的背景、価値観を持つ多種多様な集団・組織、他者に働きかけ、相互の意思疎通を図るビジネス・コミュニケーション能力、マネジメント能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 専門基礎科目、基礎ゼミナール、専門ゼミナールの単位修得</p>	<p>【学修内容】 社会や企業組織におけるコミュニケーションに必要な論理的思考力を身に付けるために、経営学を中心に、経済学や法学分野の基礎と専門知識を学修する。 議論・プレゼンテーション能力を身に付けるために、演習形式で輪読、チーム研究、研究発表などを経験する。</p> <p>【学修方法】 専門基礎科目を初年次に開講することによって、経営学分野で求められる論理的思考力を早期に身に付けさせる。 能動的学修によって、実践的な議論・プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験等により到達度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 経営学の専門知識を駆使しながら、自らの考えを表現する能力と、他者と積極的にコミュニケーションを取ろうとする意欲</p>